

～ 村 の 変 遷 ～

◇もとは80以上の村

平成16年の5町村合併から10年を迎えました。県内2位という広い面積をもつ本市は、江戸時代には80以上の村々に分かれて、それぞれに違った生活圏や交通体系の中で生活が営まれてきました。小さな村々が何度かの合併や分割を経て現在に至る過程を、地域ごとに探してみたいと思います。

◇村の分合の歴史

現在、私たちが「大字（おおあざ）」として認識している地名のほとんどが、江戸時代には村と呼ばれていました。村も江戸時代の間に名称が変わったり、分合があったりしましたが、天保年間（1830～1843年）以後はほぼ現在の地名に改まりました。「常陸大宮市〇〇」という住所表記の〇〇部分は、多くの地域では200年以上使われ続けている、ということになります。かつての村名とその分合を記したのが右の表です。

江戸時代以来の村は、明治時代22年（1889年）の市制・町村制の施行、いわゆる「明治の大合併」によって大きく変わりました。政府は、行政の事務処理に合った規模の自治体にするため、300戸から500戸を一村とする目安を提示しました。江戸時代以来の村は、地理的条件や環境から発生した自然集落的な要素を多分に持ち、500戸を超えるような大村もあれば10戸程度の小村もあり、村の規模は様々でした。行政の近代化や効率化のために、村の規模の均一化が目指されることになりました。明治21年に7万余りあった町村は、翌年には1万5千余になりました。常陸大宮市域でも、80余りあった村は18カ村となりました。

戦後は地方行政の効率化のため、昭和28年に町村合併促進法が、同31年には新市町村建設促進法が施行され、町村の目安が8千人以上と提示されました。これを受けた昭和の大合併では、全国でおよそ9,900あった市町村が、昭和36年には3,400余りと3分の1になりました。この時、市域では18の町村が大宮町・山方町・美和村・緒川村・御前山村の2町3村となりました。

次号以降は、史料からわかる各地域の合併の経過をご紹介します。

【表】江戸時代から昭和の村の変遷

江戸時代の村名	明治の大合併	昭和の大合併
諸沢村、田野村（→北富田村）、西野内村	諸富野村	山方町
梶畑村・長貫村（→家和楽村）、久隆村、下小川村	下小川村	山方町
舟生村、山方村、野上村	山方村	山方町
小貫村、押沼村・生井沢村・東谷村・釜額村（→照山村）	世喜村	山方町
下寺田村（→照田村）、上寺田村（→長田村）、長沢村	塩田村	山方町
下檜沢村、上檜沢村、氷之沢村	檜沢村	美和村
高部村、入檜沢村、小田野村、鳥子村	隆郷村	美和村
小舟村、大岩村、油河内村、松野草村、千田村、入本郷村、吉丸村、小瀬沢村	八里村	緒川村
小玉村、上小瀬村、下小瀬村、法性寺村、那賀村、国長村	小瀬村	緒川村
辰野口村、塩原村、小倉村、檜村（→富岡村）	世喜村	大宮町
岩崎村、久慈窪村（→久慈岡村）、上大賀村、小祝村、別所村（→富谷村）、横瀬村・上根本村（→鷹巣村）	大賀村	大宮町
東野村、八田村、菅又村・引田村（→若林村）	玉川村	大宮町
北塩子村、西塩子村	塩田村	大宮町
部垂村（→大宮村）	大宮町	大宮町
宇留野村・前小屋村（→泉村）・下根本村・上岩瀬村・下岩瀬村	上野村	大宮町
下村田村・高野村・上村田村・石沢村	静村	大宮町
忠中戸村（→福山村）・向山村・小場村・小野村・三美村	大場村	大宮町
門井村・野口平村・大畑村・野口村	野口村	御前山村
土路部村（→金井村）、長倉村、中居村、福岡村、秋田村、野田村	長倉村	御前山村
下伊勢畑村・上伊勢畑村・檜山村	伊勢畑村	御前山村

※盛金村・照田村は分村合併

文書館 ☎52-0571